

2025 年 11 月 6 日

宇城市議会議長 様

会派名

新志会

代表者名

石川 洋一 印

視察報告書

政務活動費により視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

視察日時	令和 7 年 10 月 28 日～30 日	
視察場所	三次市アシスタ Lab、Onomichi U2、広島平和記念資料館、広島城、広島ゲートパーク	
参加者氏名	石川 洋一	津志田 幸紀
	豊田 紀代美	林田 和
	嘉古田 茂己	
	田中 美君	
目的・経緯	地域活性化・観光拠点整備・文化資源の保存活用・市民協働の推進について、先進地の取組を学ぶため。	
概要・所感	1) 三次市まちづくりセンター「アシスタ Lab」 三次市まちづくりセンター「アシスタ Lab」は、行政が主導して整備した地域拠点でありながら、市民・企業・教育機関など多様な主体が参画し、協働によって地域課題の解決や新しい活動を生み出す仕組みが特徴である。行政が明確な方針と方向性を示しつつも、現場の運営や企画段階では利用者の意見を柔軟に取り入れ、“行政主導×市民参加”のバランスが取れたモデルとなっている。施設内には、コワーキングスペース、ものづくり工房、会議室、カフェスペースなどが整備され、創業支援、子育て世代の活動、学生プロジェクトなど多様な使い方が日常的に行われている。 特に印象的だったのは、利用者自身がイベントや講座の企画に関わり、行政	

(裏面に続く)

概要・所感	がサポート役として伴走している点である。 この運営形態によって、市民の自発性が引き出され、行政の取組が“現場の声を反映した政策実装”へと繋がっている。今回の視察では、実際に施設を利用している女性の方から直接お話を伺うことができた。 その方は、砂糖を使った脱毛サロンを開業されており、アシスタ Lab のコワーキングスペースを拠点に、同世代の女性や子育て中の方々と交流しながら事業を展開されていた。 「この場所があったから挑戦できた」という言葉が印象的で、地域拠点が個人の自立と挑戦を支える事例として大変示唆に富んでいた。 現場で実際に利用者の声を聞くことができたことは、視察全体の中でも特に満足度の高い経験であった。 【学び・質疑宇城市への示唆】 宇城市でも、地域センターや公共施設を活用したまちづくりを進める際には、「行政主導で方向性を示し、市民や民間と協働しながら形にしていく」というアプローチが求められる。この検証を経て初めて、宇城市に適した持続的なモデルを設計することができる。したがって、宇城市で導入を進める際には、必ず検証プロセスを踏むべきである。 行政が率先して方針を打ち出し、市民や利用者とともにその効果を確認しながら進めることで、実効性のある事業展開が可能になる。 (2) 尾道市複合施設「ONOMICHI U2 (おのみちユーツー)」 尾道市の海沿いに位置する「ONOMICHI U2 (おのみちユーツー)」は、旧海運倉庫をリノベーションして誕生した複合施設である。 サイクリスト専用ホテル「HOTEL CYCLE」を中心に、レストラン、カフェ、ベーカリー、雑貨店、サイクルショップなどが一体となり、観光とライフスタイルを融合した空間を形成している。このプロジェクトは、尾道市と常石造船グループの連携によって実現したものであり、地域経済と観光振興を両立させる成功事例として全国的に注目されている。 常石造船グループは、造船業を基盤としながら観光・地域デザイン・文化発信にも積極的に取り組んでおり、企業の総合力を活かした地域再生の好例である。行政が施設の再利用方針を明確に示し、民間がデザイン性・運営ノウハウ・ブランド力を発揮することで、単なる建物再生ではなく“地域価値の再生”が実現していた。 “しまなみ海道”を訪れる国内外のサイクリストが集い、宿泊・飲食・体験を
--------------	---

通して地域に滞在する仕組みが構築されており、観光消費の地元循環を促している。

【学び・質疑宇城市への示唆】

宇城市でも、旧倉庫などの歴史的建築物の再活用において、同様の取り組みが可能であると感じた。

とりわけ、熊本県が管理している宇城市三角町（みすみまち）の県有倉庫群は、立地条件や港町の景観を活かすことで、ONOMICHI U2のような複合施設として再生できる潜在力を持っている。

海を望む環境に飲食・宿泊・創業支援・観光案内などを組み合わせれば、港エリアの新しいにぎわい拠点として大きな期待が寄せられる。その際には、尾道の事例と同様に、観光・地域づくりに強みを持つ企業（例：常石造船グループのような産業・観光連携企業）との協働が不可欠である。

行政が方向性を明確に示し、企業の創意と地域の魅力を融合させることで、宇城市ならではの持続的で発信力のあるプロジェクトを実現できるだろう。宇城市の港湾エリア再生においても、こうした「産業・観光・文化を横断する公民連携モデル」を積極的に取り入れることが望ましい。

（３）広島平和記念資料館

被爆の実相を伝える世界的施設として、広島平和記念資料館は平和学習・国際理解の拠点となっている。

展示は、戦前の市民生活から原爆投下・復興までを時系列で構成し、被爆資料や証言映像を通して、平和の尊さと命の重みを訴えている。

近年のリニューアルにより、展示がデジタル化され、国内外の来館者に分かりやすく伝える工夫がなされていた。

【学び】

平和教育を地域社会でどのように継承するかという課題を再認識した。

宇城市においても、学校教育や地域活動の中で、命の尊さ・戦争の悲惨さを伝える機会を設け、次世代への継承を強化することが必要である。

(4) 広島城

広島城は戦後再建された木造風建築を中心に、広島の歴史と文化を伝える観光資源として整備されている。

近年はデジタル展示やVR体験などを取り入れた「参加型学習型施設」として発展しており、夜間イベント「ナイトキャッスル」など、文化資産を活かした観光振興策が進んでいる。また、現在の天守は老朽化に伴い、近い将来に本格的な再建（木造による復元）を予定しているとの説明を受けた。

今回の視察では、その再建前の広島城を実際に見ることができ、現行の展示構成や建築様式を直接確認できたことは非常に貴重な機会であった。

再建後は新たな観光拠点としてさらに進化する見込みであり、今後の文化財再生の在り方を考える上でも大きな示唆を得た。

【学び】

宇城市の文化施設運営にも、こうしたデジタル技術を活用した体験型展示や、昼夜を通じた魅力発信を導入することで、新しい観光の形を構築できると感じた。また、文化財の保全と活用を両立させる運営姿勢は、地域資源の持続的な価値向上の参考になる。特に「再建を契機に新たな価値を創造する」という広島城の取組は、宇城市の歴史的建造物の活用方針を検討する上でも有益である。

(5) 広島ゲートパーク

旧広島市民球場跡地を再整備した「広島ゲートパーク」は、芝生広場・イベントステージ・飲食店舗などが一体化した都市型公園である。

さらに、スケートボード利用者向けに「スケートパーク (Skate Park) セクション」が設けられており、街の中心部に若者やスポーツ愛好者が集うアクティブスペースが整備されていた。市民と観光客が共に憩い、交流する空間として機能しており、まちなかに「にぎわい」と「やすらぎ」を共存させている。

広島駅や商業施設との動線も意識した設計で、イベントやマルシェが定期的で開催され、地域経済にも寄与している。視察当日は、日本水道協会全国会議および「2025 広島水道展」がこのゲートパークで開催されており、各地の水道関連企業や行政担当者が多数来場していた。

	このように、施設が単なる公園にとどまらず、スポーツ・産業展示・多世代交流の場としても機能していることを実際に確認できた。 都市の中心に“開かれた広場”を持つ意義を強く実感し、公共空間の多目的利用の好例として非常に参考になった。また、広島市は被爆都市としての歴史を受け継ぎながら、国際平和文化都市としての発信力を高め、世界から人を迎える都市づくりを進めている。ゲートパークもその象徴のひとつとして、スポーツ・観光・文化を通じて国際交流を促進する役割を担っており、都市のブランド価値を向上させている。 【学び・質疑宇城市への示唆】 宇城市においても、中心市街地や公共空間の再整備に際し、「多世代交流」「スポーツ・アクティビティを含む滞在型のにぎわいづくり」を基本理念に据えることが重要である。特に、スケートボードやBMXなどの若者向けアクティビティを観光資源の一部として導入することで、交流人口の拡大と地域活性化に繋げる可能性がある。スポーツを通じたまちの魅力発信は、地域外からの来訪者を呼び込み、国際的な視点をもった新しい観光モデルの構築にもつながるだろう。また、広島市のように「国際性」「開放性」を意識した都市運営を進めることは、宇城市が今後、世界との交流を視野に入れた地域づくりを進める上でも大きな参考になる。 単なる公園整備ではなく、文化・スポーツ・観光・国際交流が融合した“まちの心臓部”としての空間づくりを目指すべきである。
主な質疑応答	今回の視察を通じ、行政と民間、市民が協働して地域を動かす仕組みづくりの重要性を実感した。 三次市アシスタ Lab では、行政主導と市民活動のバランス、実証・検証の進め方、女性や子育て世代の支援体制のあり方を検討課題とした。 尾道市の ONOMICHI U2 では、常石造船グループとの連携による倉庫再生事業を参考に、宇城市三角町の県有倉庫の活用や、民間との協働による観光拠点づくりの可能性について質す必要があった。 広島ゲートパークでは、スケートパークをはじめとする多機能型公園の運営やイベント活用の仕組み、さらにスケートボード文化を観光資源として導入する方向性、そして国際都市としての発信力強化について質疑を深めることが重要であると推察する。

視察の様子
(写真等)



